

令和8年8月28日

令和7年度 特別の教育課程の実施状況等について

香川県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
宇多津町立宇多津中学校	宇多津町教育委員会	公立

<特記事項>

効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民への説明責任を果たしていくことを目的に、教育委員会事務局実施事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、宇多津町のホームページでその結果を報告している。

特別の教育課程の実施も含めた英語教育・外国語活動について点検・評価を行い、ホームページでその結果を報告することで、保護者や地域住民等が宇多津町立宇多津中学校の外国語教育の現状を理解し、家庭や地域でも英語教育・外国語活動に対して興味関心を持っていただけるようにしている。

1. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

全学年「コミュニケーション」という授業を行っている。その授業は、A L T も積極的に授業に加わりオールイングリッシュで実施している。「英語を使う」ことに主眼を置き、普段の英語科の授業でのトピックや文法事項を関連づけながらプレゼンテーションやライティングといった活動を行い、コミュニケーション能力や表現力の向上に努めている。

授業者は、クラスルームイングリッシュを積極的に使い、パターン化することで定着を図り、生徒も活用できるようになるまで高まることをねらっている。授業の最初には、1分間スピーチや生徒同士や生徒とA L T も含めた授業者のスモールトークを行い、自然な会話ができるような場面を設定している。また、プレゼンテーション作成の際には、絵や写真などの視覚教材やタブレットP C等のI C Tを活用して、英語の理解や発表を助ける。活動の始めにA L T がモデルを見せることで、生徒がゴールのイメージを持てるようにしている。

このような「コミュニケーション」の授業の評価をするために、令和6年度に3年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査の質問紙調査における英語に関連した質問(61)～(65)を参考に「英語の授業では、英語を聞いて(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか」「英語の授業では、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか」「英語の授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか」「英語の授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思いますか」という4個の質問を作成した。そして、令和7年11月に全校生を対象に質問紙調査を実施した。

その結果、全ての質問で肯定的な回答が80%を超えた。特に「英語の授業では、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか」というの質問について、肯定的な回答をした生徒の割合は、82.6%で、単純に比較はできないが令和6年度の全国学力・学習状況調査の3年生の肯定的な回答を10P以上、上回っている。

英語でコミュニケーションをとる面白さを継続し、定着させることが今後の課題と考えている。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

令和7年11月に香川県下の中学2年生を対象に実施した香川県学習状況調査の質問紙調査において、本特例の実施校である宇多津町立宇多津中学校の2年生の英語に関係する質問「36. 英語の授業では、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていますか。」における肯定的回答が、令和7年度は約88%となっており、香川県の肯定的回答を約9P上回っている。令和6年度と同質問紙調査では、約8P香川県の肯定的回答を下回っていたが、令和7年度は約9P上回った。これは、「コミュニケーション」の授業での様々なメディアを活用してのプレゼンテーションやライティングの成果ではないかと考えている。

2. 課題の改善のための取組の方向性

(1) 授業における工夫

- ・ 「コミュニケーション」の授業で今まで以上に、生徒同士、生徒とALTも含めた授業者のやり取りの場を多く設定する。また、授業以外の場面でも英語を使える実践的な場を考えたり、設定したりして、日常的にも英語でのコミュニケーションの楽しさが味わえるようにする。
- ・ 学年や発達段階に応じたクラスルームイングリッシュを使用する。英語の苦手な生徒にはALTが意図的にシンプルな言い方でゆっくり繰り返し話しかけて、英語で会話する経験を少しでも増やしていく。
- ・ 「Good try」や「Congratulations」など、英語を使用した称賛を日常的に行い、生徒の意欲が高まるようにする。

(2) 小学校との連携

- ・ 小学校では、中学年の外国語活動、高学年の外国語科の実践を生かして、楽しみながら中学校での英語のコミュニケーションを楽しむための基盤づくりを行う。また、ライティングを抵抗なく行えるための基盤づくりも行う。そのために、宇多津町小中学校教育連携協議会情報交換部会の英語部会で、小中学校の日常的な情報交換や具体的な連携案の作成等を行い、実践を積み上げていく。